富士製薬工業株式会社
証券コード：4554

第52期　第2四半期報告書

Fuji Pharma IR Report

2015年10月1日から2016年3月31日まで

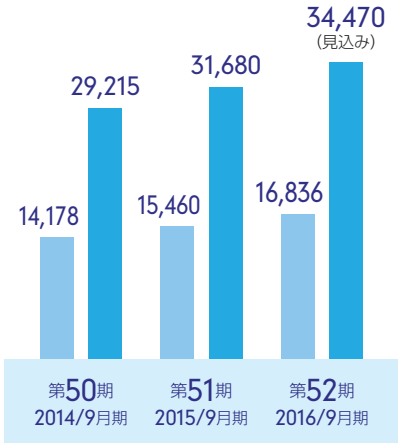
株主・投資家の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。
また、この度の熊本地震をはじめとする
九州地方における地震により被災されました皆様に
心よりお見舞い申し上げます。

販売移管品が売上増加に大きく寄与し、ジェネリック造影剤も伸長。原材料価格の上昇があったものの２桁の増益を達成しました。

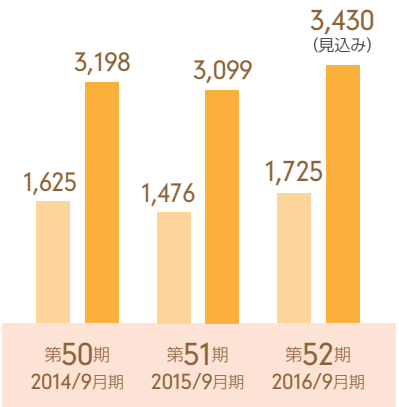
売上高

(単位:百万円)



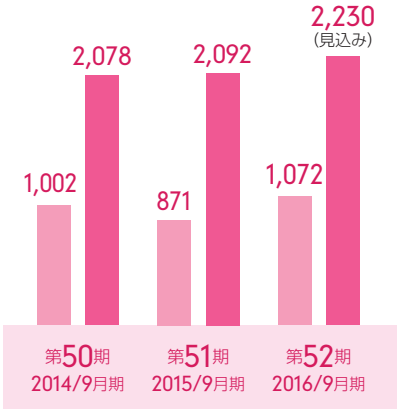
経常利益

(単位:百万円)



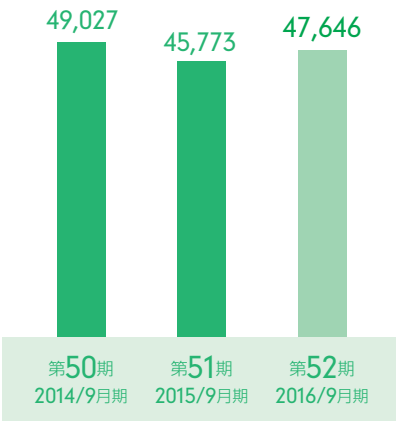
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



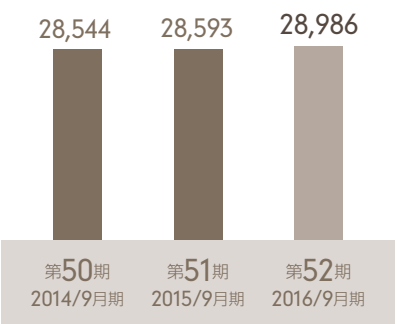
総資産

(単位:百万円)



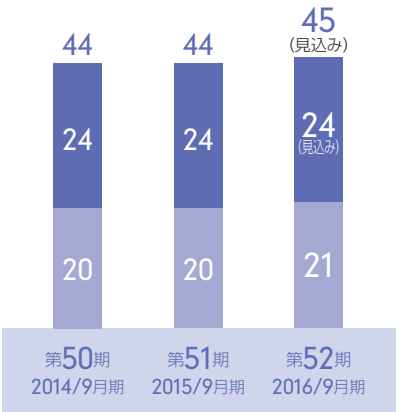
純資産

(単位:百万円)



１株当たり配当金

(単位:円)



Top Message トップメッセージ

代表取締役会長　今井博文

代表取締役社長　武政栄治

Q. 上半期の経営概況と主な取り組みをお聞かせください。

この上期の主な取り組みですが、2015年10月に、MRI造影剤「マグネスコープ®静注」、リンパ系・子宮卵管造影剤「リピオドール®注」、尿路・血管造影剤「ヘキサブリックス®注」の3製剤の販売権をゲルベ・ジャパン株式会社より取得し販売を開始しました。本3製剤はいずれも新薬で、「マグネスコープ®静注」は欧州で最も使用されているMRI造影剤です。この3製剤を加えることで、放射線領域、インターベンション治療領域／オンコロジー領域及び不妊症領域における製剤のラインナップを更に拡充しました。

また、2016年2月には、生殖補助医療における黄体補充を効能・効果とする天然型黄体ホルモン製剤「ウトロゲスタン®腟用カプセル200mg」を発売しました。本剤は、海外では多くの国で使用されていますが、国内では近年まで同成分の腟製剤が未承認であったため、厚生労働省より開発要請を受けておりました。

身体的負担の軽い経腟投与剤である本剤の発売により、産科・婦人科領域の医療への新たな選択肢の提供が可能となり、多くの患者様に更なる貢献を果たしてまいります。

Q. 新体制となりますが、これからの富士製薬工業が目指すべき姿を教えてください。

新体制後も当社が目指すべき姿は変わりません。引き続きジェネリック医薬品中心から新薬や承継品・バイオ後続品といった「ブランド薬」に経営資源をシフトするとともに、子会社のOLIC社を起点とした主力製品の海外市場の展開、海外企業とのアライアンス戦略の具体化等、独自性のある高付加価値な医薬品ビジネスに取り組み、Fuji Pharmaグループとしてグローバルな事業展開を図ってまいります。

Q. 最後に株主の皆様に一言お願いします。

2016年4月1日より、代表取締役会長に就任いたしました。今後は、代表取締役会長として武政代表取締役社長をサポートし、新体制での社業の一層の飛躍を目指してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

Q. 2016年4月1日に社長に就任されましたが、目指している経営について教えてください。

「人を大切にする」経営が当社の原点です。

当社では、「優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する」、「富士製薬工業の成長はわたしたちの成長に正比例する」を経営理念としていますが、経営者として、社員一人ひとりが自身の仕事を通じて、社会、会社そして自分自身に役に立っていることが実感できるような業務機会の場を提供し続けることが、会社の継続的な成長・発展につながり、株主・投資家の皆様に対する責任を果たすことになっていくと考えています。

当社ではこれまで、生産工程での取り扱いが難しく、高い専門性が求められる高生理活性物質のホルモン剤や、無菌性・安全性が求められる注射剤等の開発に取り組んでまいりました。当時の当社にとっては大きなチャレンジであったこのような取り組みが、社員の成長する機会となり、造影剤事業で申し上げれば、ジェネリック医薬品でトップシェアを築き、売上高100億円を超える規模の事業への発展につながったのだと思います。

2012年の東証一部上場後は、ジェネリック医薬品から新薬やブランドジェネリック、バイオシミラーに経営資源を投入してきておりますが、製剤化が難しい高付加価値ジェネリック医薬品の開発にも積極的にチャレンジしてまいります。

「人を大切にする」経営という当社の原点を大切にしながら、新たな取り組みに積極的にチャレンジし、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

Q. 上半期の業績について、どのように評価をしていますか。

当社グループの当第2四半期の業績ですが、売上高は、前年同期比8.9%増の16,836百万円、営業利益は同26.3%増の1,819百万円、経常利益は同16.9%増の1,725百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は同23.1%増の1,072百万円と増収増益となりました。

原材料の調達価格の上昇などにより売上原価は上昇したものの、昨年10月に他社より承継したMRI造影剤「マグネスコープ®静注」などの新製品投入によって売上が増加したことに寄与し、概ね当初の見込み通りに推移しています。

また、本年1月22日には、「生殖補助医療における黄体補充」を効能・効果とする天然型黄体ホルモン製剤「ウトロゲスタン®腟用カプセル200mg」の製造販売承認を取得し、同年2月18日より発売を開始しておりますが、本剤は自社開発による初の新薬であり、ジェネリック医薬品から新薬などのブランド薬へシフトを図っている当社において、大きな成果を残すことができたと考えております。

Q. これまでの経営戦略から何か変更があるのでしょうか。

戦略の方針につきましては、これまでと大きな変更はございません。引き続き、国内外企業とのアライアンスを促進し、注力分野の女性医療、急性期医療（造影剤や特定のオンコロジー分野）における新薬やブランドジェネリック、バイオシミラー等のラインナップを強化すると共に、子会社のOLIC社や注射剤で高い製造技術・ノウハウを有する富山工場を活用して、医薬品製造受託事業（CMO）を推進してまいります。

Q. 中期経営計画の2年目に入りましたが、今後の展望をお聞かせください。

ジェネリック医薬品への使用促進が進み、数量の増加と価格低減の流れが一層強まってくると予想される中、コスト競争力を強化すること、収益力が高い承継品も含めたブランド薬やバイオシミラー等の事業にシフトすること、子会社を活用したグローバル展開をはかることが喫緊の課題です。

中期経営計画のテーマとして「Fuji Pharmaブランディング」を掲げ、「一人ひとりと会社と製品のブランド戦略を強力に推進」、「ブランド薬を中心にする新たなステージと体制を構築」、「グローバルなFuji Pharmaグループの事業展開を実現」を基本方針に、国内外企業とのアライアンス強化やタイ子会社OLIC社による新注射剤工場建設などのグローバル事業展開の基盤作りを進め、最終年度の2019年9月期は、既に公表しております連結売上425億円、営業利益67億円、純利益43億円を見込んでいます。

Q. 株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

当社は、会社設立から50年を経過したことを契機に新体制を整え、日本国内だけではなく、東南アジアを始めとする世界の医療現場へ更なる貢献を果たしてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画　『Fuji Pharmaブランディング』

グローバルで、高付加価値な医薬品ビジネスに取り組み、全てのステークホルダーとわたしたちFuji Pharmaグループとの大きな信頼と、感動と、伝説と、共感と、親しみを築いてまいります。

一人ひとりと会社と製品のブランド戦略を強力に推進

人が大好き風土×リーダー育成プラン、生産性・資本収益性引上げ特化領域での顧客価値の最大化を推し進めます。

ブランド薬を中心にする新たなステージと体制を構築

ブランド薬※を中心に事業計画＆戦略の組み立て、会社全機能の刷新、事業運営体制の再構築に取り組みます。

グローバルなFuji Pharmaグループの事業展開を実現

OLIC（Thailand）Limitedを起点に主力製品の海外市場への展開、海外企業とのアライアンス戦略の具体化、Sustainable Leading CMO in APACを図ります。

CMO：製造受託事業（Contract Manufacturing Organization）
APAC：アジア太平洋地域（Asia Pacific）
※当社におけるブランド薬とは、「新薬」、「他社から承継するブランドジェネリック」、「バイオシミラー」を指しております。

1. 成長戦略

戦略領域におけるブランド×ジェネリック×CMOの独自相乗発展モデルの構築

ブランド戦略
- 人材育成
- 企業価値向上
- 高付加価値製品

×

海外事業展開
- 国内外アライアンス戦略
- OLIC社の製造受託ビジネス

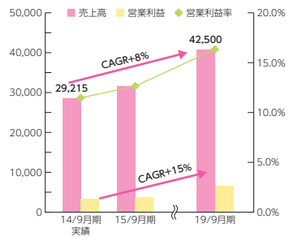
独自の相乗発展モデル確立
（Fuji Pharmaブランド薬）

2. 数値目標

- 売上の継続的成長と利益率の回復
- 長期成長を支える積極的な研究開発への投資
- コスト効率向上への継続的な取り組みを実施

経営理念を軸に、「わたしたち自身の成長」「人々の健やかな生活に貢献」のさらなる実現に向けて、グローバルで高付加価値な医薬品ビジネスに積極的に取り組んでまいります。

▼単位：百万円	14/9月期	19/9月期
売上高	29,215	42,500
営業利益	3,173	6,700
営業利益率	10.9%	15.8%
経常利益	3,198	6,650
経常利益率	10.9%	15.6%
当期純利益	2,078	4,350
当期純利益率	7.1%	10.2%
研究開発費	1,769	2,800



Consolidated financial statement 連結財務諸表（要約）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	当第2四半期 2016年3月31日現在	前　期 2015年9月30日現在
（資産の部）		
流動資産	32,369	30,714
現金及び預金	6,400	5,158
受取手形及び売掛金	12,507	12,337
たな卸資産	12,034	11,395
その他	1,426	1,767
固定資産	15,277	15,059
有形固定資産	11,009	10,618
無形固定資産	3,577	3,876
投資その他の資産	690	564
POINT 1 資産合計	47,646	45,773
（負債の部）		
流動負債	11,974	10,989
固定負債	6,686	6,190
POINT 2 負債合計	18,660	17,180
（純資産の部）		
株主資本	28,547	27,988
資本金	3,799	3,799
資本剰余金	5,023	5,023
利益剰余金	21,212	20,669
自己株式	△ 1,488	△ 1,504
その他の包括利益累計額	436	604
非支配株主持分	1	1
POINT 3 純資産合計	28,986	28,593
負債純資産合計	47,646	45,773

四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

	当第2四半期累計期間 2015年10月1日から 2016年3月31日まで	前第2四半期累計期間 2014年10月1日から 2015年3月31日まで
売上高	16,836	15,460
売上原価	10,085	9,039
売上総利益	6,751	6,421
販売費及び一般管理費	4,931	4,981
営業利益	1,819	1,440
営業外収益	18	66
営業外費用	112	30
経常利益	1,725	1,476
特別利益	46	46
特別損失	171	37
税金等調整前四半期純利益	1,600	1,485
法人税、住民税及び事業税	387	340
法人税等調整額	140	274
四半期純利益	1,072	871
非支配株主に帰属する当期純利益又は純損益（△）	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,072	871

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	当第2四半期 2015年10月1日から 2016年3月31日まで	前第2四半期 2014年10月1日から 2015年3月31日まで
POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,822	154
POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,577	1,739
POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,026	△ 3,533
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 29	118
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,242	△ 1,521
現金及び現金同等物の期首残高	5,664	8,680
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,906	7,158

財務諸表の解説

POINT 1 資産について

タイの子会社であるOLIC社での新注射剤工場の建設が順調に進み固定資産が増加しております。また、たな卸資産が順調な売上の診断用薬を中心に増加したことなどにより前期末に比べ総資産は18億7千2百万円増加しております。

POINT 2 負債について

仕入債務の増加や長期借入金の増加などにより負債は14億8千万円増加しております。

POINT 3 純資産について

利益の増加などにより純資産が3億9千2百万円の増加。自己資本比率は60.8%となっております。

POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フローについて

たな卸資産の増加や法人税等の支払いによる支出などがあったものの、利益の増加などにより18億2千2百万円の収入となりました。

POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フローについて

主にOLIC社での新注射剤工場建設に伴う有形固定資産の取得による支出などにより15億7千7百万円の支出となりました。

POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フローについて

長期借入れによる収入などにより10億2千6百万円の収入となりました。

詳細な財務情報は、
当社ホームページ　株主・投資家情報の
IRライブラリをご覧下さい。

富士製薬工業IR　検索

アドレスはこちら▼
http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html

OLIC (Thailand) Limited

OLIC新工場建設プロジェクトインフォメーション

OLIC (Thailand) Limited (以下、「OLIC社」) では現在注射剤の新工場の建設を進めています。2014年11月に既存敷地内の未使用の土地の整備を開始し約1年半が経過しましたが、建屋の建築及び製剤製造機械の搬入もほぼ完了し同プロジェクトは順調に推移しています。現在は製造機械の試運転や製薬用水設備及び空調などの製造環境の検証作業を繰り返し実施しており、早期にタイ当局及び日本当局による製造許可を取得し、2017年からの商業生産に向けて忙しい毎日を送っています。

同注射剤工場では富士製薬工業の主力製品の一つである尿路・血管造影剤のバイアル製剤 (ガラス瓶に充填された製品) をメインに製造し日本向けに輸出します。これまで富山工場で製造していた製品をOLIC社の同工場に移管しますので、工場のコンセプトや製造機械の選定も富山工場のノウハウが生かされています。また、製品の製造移管にあたっては、OLIC社員が富山工場で研修を受け製造方法を学ぶとともに、富山工場からも人材を派遣し指導してもらうことになっており、名実ともに富士製薬工業の第2工場となります。

また、OLIC社で製造した富士製薬工業製品を日本に輸出するだけでなく、自社ブランド製品としてタイをはじめとする東南アジア各国及びその他の地域での販売も視野に入れて準備を進めています。更に、同工場の余剰製造能力を活用し日本の製薬会社等からの製造受託も行うべく、今年4月に東京で開催された展示会 (CPhI Japan) に出展するなど富士製薬工業と連携しながら営業活動を行っております。

このように当該新工場は富士製薬工業グループとして製品の製造移管のみならず、グローバルに展開する試金石となる非常に重要なプロジェクトであるとともに、双方の人材交流や新規事業開拓を通して富士製薬工業グループ社員が更に成長できる絶好の機会であると考えております。同工場が完成し軌道に乗るまでには今しばらく時間がかかりますが、株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き温かいご支援を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

OLIC (Thailand) Limited
Managing Director
上出　豊幸

新注射剤工場

4月に東京ビッグサイトで開催された展示会 (CPhI Japan) の出展風景

Topics トピックス

天然型黄体ホルモン製剤「ウトロゲスタン® 腟用カプセル200mg」新発売

2016年1月22日に「生殖補助医療における黄体補充」を効能・効果とする当社初の開発新薬である天然型黄体ホルモン製剤「ウトロゲスタン®腟用カプセル200mg」の製造販売承認を取得し、2016年2月18日に発売いたしました。

本剤は、Besins Healthcareが開発したプロゲステロンを有効成分とする経腟投与の天然型黄体ホルモン製剤で、世界80ヶ国以上で承認されておりますが、日本では最近まで同成分の腟製剤が未承認であったため、厚生労働省より開発要請を受け、当社が国内の開発を進めておりました。

日本での生殖補助医療は、近年、少子高齢化・晩婚化が進み少子化対策の一端を担っていると考えられ、その生殖補助医療において、黄体ホルモンは着床や妊娠の維持のために重要な役割を果たしており、治療の際には体外からの黄体ホルモン補充が必要になります。

海外ではフランスをはじめ多くの国で患者様の時間的負担、身体的負担の軽い経腟投与による黄体ホルモン補充が一般化しており、本剤は日本での経腟投与での黄体ホルモン補充を実現する薬剤になります。

産科・婦人科領域の医療への新たな選択肢となる本剤の提供を通じて、より多くの患者様に貢献してまいりたいと思います。

製品名	ウトロゲスタン® 腟用カプセル200mg
一般名	プロゲステロン
剤形・含量	1カプセル中にプロゲステロン200mgを含有する腟用カプセル剤
効能・効果	生殖補助医療における黄体補充
用法・用量	プロゲステロンとして1回200mgを1日3回、胚移植2〜7日前より経腟投与する。妊娠が確認できた場合は胚移植後9週 (妊娠11週) まで投与を継続する。
製造販売承認日	2016年1月22日
薬価基準	未収載

®:Registered trademark (Owned by BESINS HEALTHCARE LUXEMBOURG S.A.R.L.)

会社概要 | 2016年3月31日現在 |

会社名	富士製薬工業株式会社(Fuji Pharma Co., Ltd.)
所在地	〒102-0075　東京都千代田区三番町5番地7
設立	1965年4月
資本金	37億9,910万円
社員数	連結：1,451名 (富士製薬：686名、OLIC社：765名)
事業所	本　社：東京 支　店：北海道・東北、関東第一、関東第二、名古屋、京滋北陸、関西、中四国、福岡 工　場：富山 研究所：富山研究開発センター
海外グループ会社	OLIC (Thailand) Limited http://www.olic-thailand.com/

役員（2016年3月31日現在）

代表取締役	社長執行役員	今井　博文
取締役	執行役員	上出　豊幸
取締役	執行役員	三橋　厚弥
取締役	執行役員	小澤　雅之
取締役	執行役員	山崎　由実子
取締役	執行役員	井上　誠一
取締役	執行役員	武政　栄治
取締役（社外）		小沢　伊弘
取締役（社外）		内田　正行
取締役（社外）		田中　秀一
常勤監査役		徳永　賢一
監査役（社外）		三村　藤明
監査役（社外）		佐藤　明

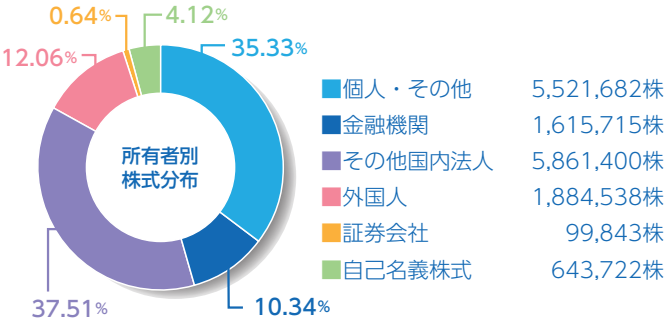
株式の状況 | 2016年3月31日現在 |

発行可能株式総数	28,220,000株
発行済株式総数	15,626,900株
株主数	3,996名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	3,437,500	22.00
有限会社ＦＪＰ	2,166,100	13.86
今井　博文	2,026,249	12.97
新井　規子	620,000	3.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	577,500	3.70
今井　道子	423,000	2.71
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT - CLIENT ACCOUNT	385,300	2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	300,100	1.92
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	279,000	1.79
富士製薬工業　従業員持株会	201,590	1.29

(注) 当社は、自己株式643千株（発行済株式総数の4.12%）を所有しておりますが、上記大株主から除外しております。



| 株主メモ |

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当金　毎年9月30日 中間配当金　毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告（当社ホームページに掲載） https://www.fujipharma.jp/ir/other/announce.html ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合には、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 (電話照会先) 0120-782-031 (インターネットホームページ URL) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所　市場第一部

●第52期中間配当金のお支払いについて

第52期中間配当金は、同封の「第52期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局（銀行代理業者）で払渡期間内（2016年6月1日から2016年7月1日まで）にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいますようお願い申し上げます（株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関（証券会社）へお問い合わせください）。

●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正（2008年4月30日法律第23号）により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております（同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります）。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます（株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関（証券会社）へお問い合わせください）。

FujiPharma

富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ お問い合わせ
本社／コーポレート企画部　〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F
TEL：03-3556-3344　FAX：03-3556-4455
URL：http://www.fujipharma.jp/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080
VEGETABLE OIL INK